

新医学系指针对応「情報公開文書」改訂フォーム

研究協力をお願い

昭和大学病院附属東病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

眼外鑷子ガイド法による眼内レンズ強膜内固定術の検討

1. 研究の対象および研究対象期間

2019年4月から2020年9月に鑷子を用いて眼外から眼内レンズ支持部を誘導して強膜に固定する方法（眼外鑷子ガイド法）にて眼内レンズ強膜内固定術を行った患者様

2. 研究目的・方法

水晶体嚢の支持がない眼球に対する眼内レンズ固定法として、従来、糸で眼内レンズを強膜に固定する眼内レンズ縫着術がおよそ30年前から施行されてます。しかし、縫合糸の断裂に伴う眼内レンズ脱臼や縫合糸の眼外露出などの問題点があるため、2007年から眼内レンズ縫着術に代わる方法として眼内レンズ強膜内固定術が行われるようになりました。現在までに数多くの有用性の報告がなされており、縫合糸関連の合併症がなく眼内レンズ固定も良好であることから、我が国でも急速に普及し、一般的な方法となっています。眼内レンズ強膜内固定術の手技は様々な方法がありますが、最も多く行われている方法は、眼内レンズ支持部誘導操作を眼内で行う眼内法です。眼内法では後方支持部を強膜に誘導するための難易度が高く、眼内レンズ光学部を眼内で大きく偏位させる必要があり、症例によっては難易度が非常に高くなる場合があります。この問題を克服するため、後方支持部を眼外から直接誘導する方法（眼外法）の有用性が多数報告されています。眼外法により難易度が高い支持部誘導操作を眼外の広いスペースで行うことができ、眼内での眼内レンズ光学部偏位は最小限となるため毛様体などへの接触リスクが低下します。そのため手技が簡便になるだけでなく安全性の高い強膜内固定術が可能となります。今回、鑷子を用いる眼外法による眼内レンズ強膜内固定術（強膜内固定術・眼外鑷子ガイド法）を施行した症例の検討を行い、その有用性を検討します。

研究期間

医学研究科 人を対象とする研究等に関する倫理委員会承認後、病院長の研究実施許可を得てから2021年3月31日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢、性別、手術に至った原因疾患、術前・術後視力、眼圧、眼底所見、角膜内皮細胞密度、術中・術後合併症有無

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学病院附属東病院眼科

氏名：浅野泰彦

住所：東京都品川区西中延 2-14-19

電話番号：03-3784-8553

研究責任者：浅野泰彦